

だ み よ く り に

No.733 令和5年1月1日発行



「うんと」

あけましておめでとうございます
ご家族揃って新年を迎えられたこととお慶び申し上げます

本格的な寒さになりましたが、体調変わりありませんか。子育て、家事、お仕事、介護……普段のお忙しい生活から、年末年始は少しでもゆっくりと過ごせたでしょうか。そうであることを願っています。そして、お子さまもご家族とゆっくりと過ごすことで、ご家族の温もりに触れ、新しいエネルギーを充電したことと思います。

3学期はまとめの時間です。職員一同、お子さまお一人お一人を大切に、さらなる成長を見守っていきます。皆さまにとって素晴らしい一年になりますように。今年もどうぞよろしく願いいたします。

12月のある日、満面の笑みで遊ぶ子どもたちを見て、「うんと子どもでうんと大人」という言葉をふと思い出しました。これは、児童文学作家の瀬田貞二さんの言葉で、学生時代に教えていただいたものです。瀬田貞二さんは絵本作家であり、「三びきのやぎのらがらどん」や「ナルニア国ものがたり」などを訳した方です。「子どもに関わる人はうんと子どもで、うんと大人でないといけない」。この意味がストンと心に落ちた感じがしました。わたしたち保育者は、常に子どもの心を想像します。その時に「うんと子どもで、うんと大人」であることで、全てをわかってあげることができませんが、子どもたちの心に寄り添うことができるように思います。大人は過去の経験やまわりの情報から本音と建前を使い分け、自分を守る術を身につけますね。ですが、まだ数年しか生きていない子どもたちは自分を守る術は持っていません。だからこそ、まわりの大人が子どもの心を想像して、寄り添うことが必要なのです。まだまだ深い意味のある言葉ですので、

今後も模索していこうと思います。ふと思いましたが、想像力をもって人と向き合うことは子どもたちに対してだけでなく、「人」に対してあてはまることですね。人として大切なことをまた、保育から教えてもらいました。保育は深い。今年も学ぶことが盛りだくさんになりそうです。

～クリスマス会を終えて～

さて、12月8日に行った幼児クラスのクリスマス会では、子どもたちを改めて尊敬しました。本番が初めての舞台上、逃げださずに立った立派な子どもたち。年少は遊戯、年中は繰り返しの劇、年長は場面展開があり自分の動きを考えながら行う劇。成長に合わせた内容で、みんなが主役です。細かいことですが、年長さんの中で、劇中に横を見るお子さまがいましたが、気づかれた方いらっしゃいますか。お友だちの動き、セリフを見聞きして、自分の番を考えているのです。もちろんその方法は様々で暗転や音でタイミングを考えていたお子さまもいました。そして、年中・年少さんは最後まで舞台上に立っていました。きっとドキドキしたことでしょう。わたしも緊張しました。ですので、あきらめることなくあの場に立てたことで花丸です。また、「たのしかった」という感想が出てきたことも嬉しかったです。先生たちは子どもたちが嫌にならずに楽しく練習できるよう日々配慮・工夫していましたが、その成果が最後の「たのしかった」に表れたと思います。

行事で大切なのが、本番だけではないということです。本番は日頃の生活の延長線上にあるものです。欠席したお子さまもおりましたが、練習を本当によく頑張っていました。子どもたちは日々の繰り返しの中で成長していきます。改めて子どもの素晴らしさを感じ、尊敬した1日でした。子どもたち、うんと子どもですがうんと大人ですね。